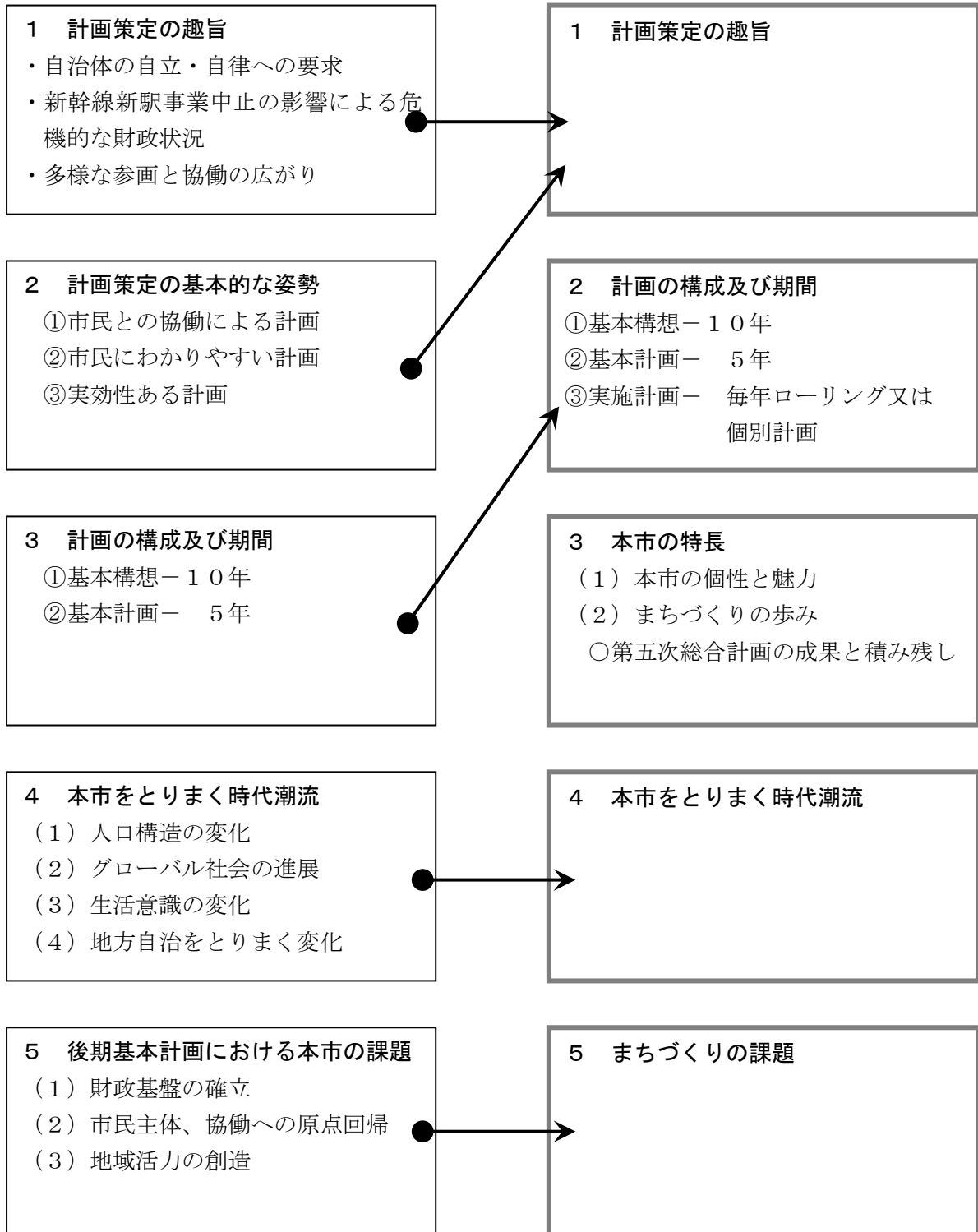


【序論】（後期基本計画の項目との比較）

（第五次総合計画－後期基本計画）



(考え方、変更の方向)

【序論】

1 計画策定の趣旨

- ・計画策定にあたって、その趣旨を記載します。
 - (1) 現計画の期間終了
 - (2) 社会経済情勢や国の動向の変化（地方創生・総合戦略・人口ビジョン）
 - (3) まちをとりまく状況変化（新幹線新駅中止対応の目途、産業立地動向等）
- ・現計画における「計画策定の基本的な姿勢」は、基本構想の「まちづくりの基本理念」や「政策の推進に向けて」と重複するので、項目立てはせず、趣旨のなかで記載します。

2 計画の構成と期間

- ・基本構想10年、基本計画5年（前期計画5年、後期計画5年）、実施計画「毎年ローリングまたは個別計画」を位置付けます。

3 本市の特長

- ・計画策定にあたって、まちの自然・特性を活かしたまちづくりを進めるため、また、総合計画を市内外に発信するまちのプロモーションの一環として、栗東市の個性や魅力を記載します。
- ・また、PDCAによる計画の見直し及び計画の継続性の視点から、第五次総合計画の成果と、取組の特徴・テーマ等について記載します。
 - (1) 本市の個性と魅力、強み（大動脈が通る利便性、若い人口の集積、恵まれた自然環境、栗東トレーニング・センター、コミュニティバス、歴史文化資源等）
 - (2) まちづくりの歩み（第五次総合計画の成果と特徴）

4 本市をとりまく時代潮流

- ・本市のまちづくりにとって、効果や影響が大きな社会経済の潮流について、前回からの変化を踏まえて記載します。

《以下例示》

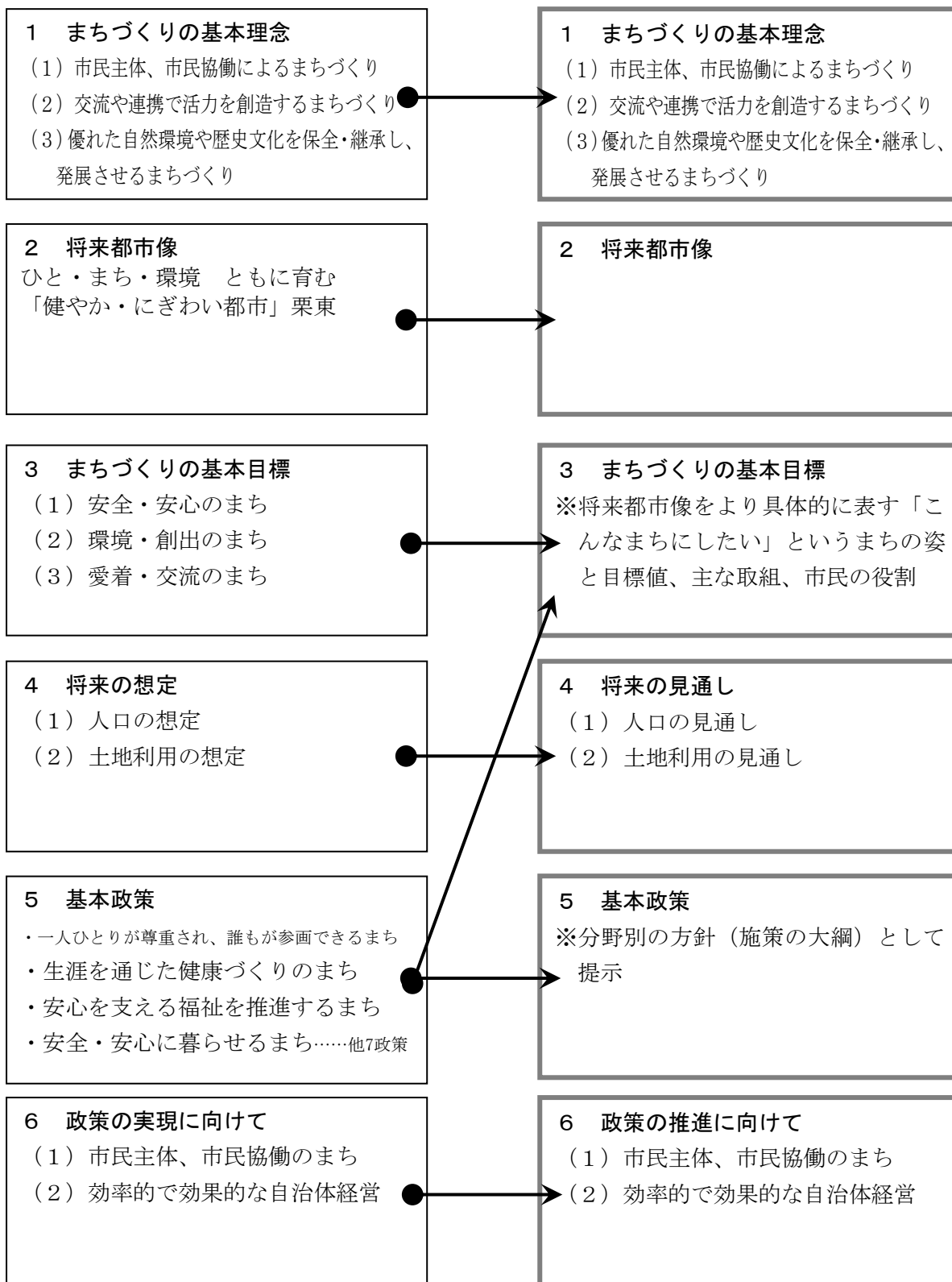
- (1) 人口構造の変化（①急激な人口減少、少子化／②高齢化の進展に向けた対応）
- (2) グローバル社会の変化（①変化する国際社会の中での競争の激化／②複雑化・多様化する環境問題）
- (3) 暮らしを取り巻く状況の変化（①巨大災害の切迫、防災・減災対策の強化／②広域ネットワークの形成による人やものの流れの変化／③ICTの劇的な進化等技術革新の進展
- (4) まちづくりを取り巻く変化（①地方分権改革の進展／②市民参画と協働への意識の高まり）

5 まちづくりの課題（方向性）

- ・審議会や議会特別委員会における議論をはじめ、市民アンケート、各種団体ヒアリング、庁内組織による検討で新たに設定します。

【基本構想】

(第五次総合計画)



【基本構想】

1 まちづくりの基本理念

- ・ 基本的・恒久的な理念として、現基本構想の基本理念を継承して記載します。
 - (1) 市民主体、市民協働によるまちづくり
 - (2) 交流や連携で活力を創造するまちづくり
 - (3) 優れた自然環境や歴史文化を保全・継承し、発展させるまちづくり

2 将来都市像

- ・ 審議会や議会特別委員会における議論をはじめ、市民アンケート、各種団体ヒアリング、庁内組織による検討で新たに設定します。

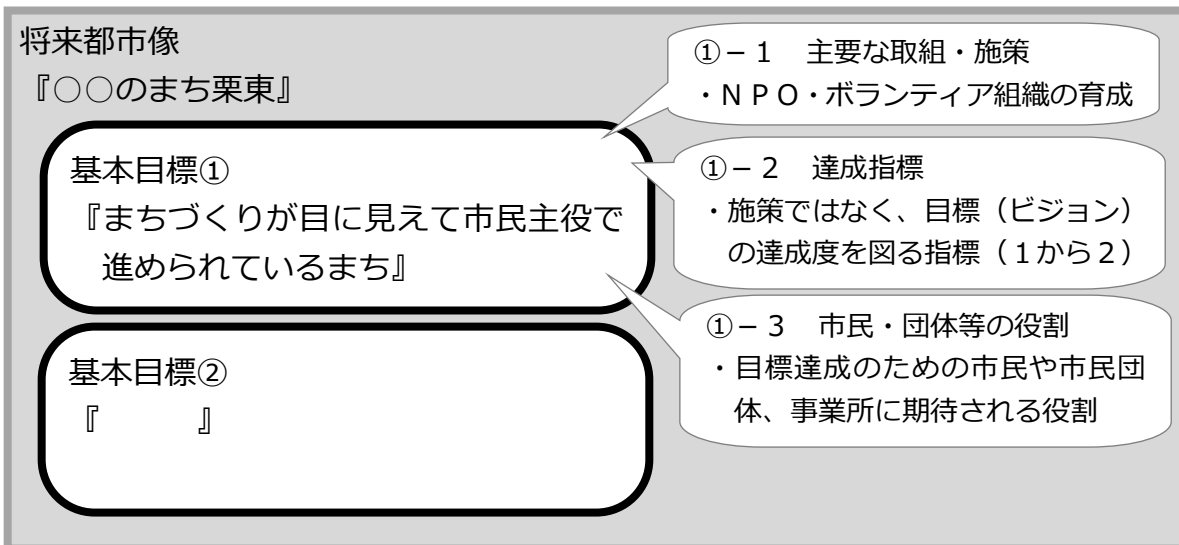
3 まちづくりの基本目標

- ・ まち全体の大きな方向を示す「将来都市像」を実現していく上で、より具体的な方向性を示す、5～10程度のテーマごとのまちの姿について記載します。
- ・ まちづくりの目標値もこの基本目標ごとに設定し、市民アンケートにおける満足度で評価を図るのも、この5～10の目標に対するものとします。

(狙い)

 - ・ 部局を超えた総合的・横断的・連携的な取組の誘発
 - ・ 市民アンケートにおける負担軽減（指標は5～10）及び回収数の増加対策
(将来的には、インターネットを活用したアンケートなど、より多くの市民から意見を募る仕掛けのひとつ)
 - ・ 基本計画における施策はアウトカムではなく、取組や事業の進捗状況を図るアウトプット指標として設定（進捗状況管理のための庁内検討資料）
 - ・ 市民等役割をこのレベルで示し、実効性、進行把握の可能性を担保

■将来都市像とまちづくりの基本目標のイメージ



4 将来の見通し

- ・人口ビジョンとの関係を踏まえつつ、目標値を設定するのではなく、今後の見通しを示すものとして記載します。日本全体の人口が減少するなか、何が何でも人口増加を目標とするのではなく、年齢構成等がいびつな形にならないようにするなどの観点を重視します。
- ・また、人口ビジョンによる人口の見通しと、都市計画マスタープランの方向性を踏まえつつ、市民意向などから期待される活性化などを実現するための計画的な土地利用の方向性を掲載します。大きな変更を伴う場合には、周辺への効果・影響を踏まえ、土地利用変更の理由を明確にしていきます。

(1) 人口の見通し

(2) 土地利用の見通し

5 基本政策

- ・現構想のスタイルを踏襲、またはいわゆる「施策の大綱」として分野別の方針を記載します。